

個別支援学級 生活単元学習の実践

1 単元名 野菜を育てよう ～落花生を育てよう～（全 20 時間）

2 単元目標

- ・自分たちで育てた野菜に関心を持ち、それを利用した料理や遊び等を考え、活動することができる。
- ・収穫して育てた野菜を調理して食べる活動を通して、作ることの楽しさを感じることができる。
- ・友だちと話し合う活動の中で、友だちの考えを聞き、自分なりの考えを持ったり、伝えたりすることができる。
- ・次の目標に向かって話し合いをしたり、準備をしたりする活動を通して、みんなで創り上げていく楽しさを味わうことができる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

研究課題「切実な問題意識を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手立て・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり
ブロックテーマ「感じる心、気持ちを伝える自分」

<聞く・話すについての指導>

4 クラスが集まり、総勢 16 名。クラスの実態にもあるように、こだわりが強く、みんなで話し合いをしても自分の意見に固執する傾向が見られる。そこで個学では、4 月から様々な場面で、話し手を見る・最後まで聞く・みんなの方を向いて話す・みんなに伝わる声で話す・考えにはできるだけ理由をつける、という「聞く・話す」ルールをもとに、話し合いが行えるようにしてきた。そうした話し合いを進めるうちに、話を最後まで聞こうとする姿、一生懸命に伝えようと話す姿、友だちの意見を聞いて、自分の考えを変えたり、友だちの良い考えを取り入れようとしたりする姿が見られるようになってきた。また、自分のこだわりだけで話をするのではなく、みんなの意見を受け入れて、どうしたらいいかを考える姿も徐々に見られるようになってきた。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

今年度も、朝の会・生活単元学習・体育科・音楽科・図画工作科・外国語活動など、個学と一緒に活動や学習をすることを多くしてきた。それぞれの学級の実態は違い、支援の仕方も違う点もあるが、16 人が共に活動する中で、豊かな関わりができ、思いが少しでもひびき合うのではないかと考えたからである。また、その中で互いの良さを認め合うことができるのではないかと考えている。

生活単元学習では、「野菜を育てたい」という思いをみんなが持ったところからスタートし、育てた野菜をどうしていきたいのかなど、一人ひとりの思いを大切にしながら話し合っている。低学年の子は、自分なりの表現方法で思いを伝えようとし、聞いている子も何を言おうとしているのか受け止めながら、聞いている。高学年の子は、今までの生活経験をもとに低学年の子に分かるように伝えようとしている姿が見られるようになってきている。

4 単元と指導

<単元について>

今年度は、畑で落花生を育てたいという気持ちをもって野菜作りに取り組んできた。落花生作りは、3年ぶりの挑戦で、どこに落花生の実ができるか分からない子もいた。種を見ながら、「落花生はどうやってできるのか」と投げかけると、様々な予想が出てきた。子どもたちは、日々大きくなっていく落花生の育ちを見守りながら生活してきた。落花生を収穫した際には、地面の下から出てくる落花生に歓喜の声を上げる姿が見られた。収穫した落花生を見て「落花生を食べたい」という思いが出てきた。子ども達の生活経験からでは、なかなか落花生を使った料理が思いつきにくかった。しかし、本でいくつか作り方を調べた子どもの紹介により、子ども達の思いが落花生を使ったお菓子作りに向いていった。また、「食べたい」という思いと同時に、「殻を使って何か作りたい・遊びたい」という思いを持つ子どももいた。殻を使った制作や遊びを思いつき、頭の中でイメージできる子ども達が、自分の考えや思いを伝えることにより、イメージできていない子ども達が自分の思いをしっかりと持てるようにしていきたい。また、さまざまな場面で友だちと関わることで、みんなで活動する楽しさやよさを味わわせることのできる単元にしたい。

<指導について>

生活単元学習では、生活に根ざした学習を取り入れてきている。今回の単元で行う「料理」「遊び」「制作」の経験は、生活の中で必要不可欠なことである。料理では、作り方・準備・手順・片付け・協力・分担などを学ぶことができる。遊びや制作からは、楽しさ・喜び・達成感・関わりなどを学ぶことができる。それぞれの児童の実態や生活経験は違うが、共に学ぶことにより、助け合い、補い合うことができると思う。また、自分の知らないことを知る経験にもつながると思う。この単元を通して、一人ひとりの子どもたちが「切実な思い」を持ち、どうしたらその思いを実現できるかを考えることの大切さに気づいてほしいと願っている。そして、自分たちの思いが実現できた満足感を味わうことにより、次の活動や様々な学習への意欲へつなげていきたい。また、新しい経験を重ねることにより、生活する楽しさを味わい、それぞれの生活経験が広がるようにしていきたい。

子どもたちは、今まで生活単元学習の中で様々な野菜を育て、料理をして食してきた。自分たちで育てた野菜がおいしくなることに感激し、喜びを味わってきた。今までの生活単元学習の経験から、「みんなで楽しみたい」という思いを持てることは予想できる。今回は、「落花生を料理して食べること」だけで終わらせるのではなく、食べられない殻に注目し、子どもたち一人ひとりに思いを持たせながら進めていきたい。「落花生の殻を使って楽しみたいな。作りたいな。遊びたいな。」という思いは、話し合いや活動を進めていく中で、一人ひとりのはっきりとした「切実な思い」となると考える。そして、子どもたちが「切実な思い」に向かって考えたり、思いを伝えたりして実現できる喜びを感じさせていきたい。

本時では、落花生の殻を使って何をしたいのか、友だちの考えを聞き、自分なりの考えを持ったり、伝えたりする姿をひびき合いの姿としていきたい。話し合いの中では、話し合い全体を見て自分なりに考えたり、友だちの考えを理解してより良い方法を考えたりできるようにしたい。話し合いの内容の理解や、イメージをもったり膨らませたりすることが得意ではない子どもたちもいるので、実際に動いたり、視覚的な支援をしたりすることで、イメージを持ちやすくしながら学習を進めるようにしたい。また、活動の中では、友だちの動きや言葉を見て、良いところを見つけ、真似ることも大切にしたい。初めてのことに不安がある子どももいるので、友だちのやり方やがんばる姿を見て、自分からやってみようとする気持ちをもつこともひびき合いの姿としたい。さらに、友だち同士で声をかけたり、助け合ったりする姿につながってほしいと思う。

5 単元構想

個学 生活単元 「野菜を育てよう ～落花生を育てよう～」 全 20 時間 本時 17 時間目

単元目標

- ・自分たちで育てた野菜に関心を持ち、それを利用した料理や遊び等を考え、活動することができる。
- ・収穫して育てた野菜を調理して食べる活動を通して、作ることの楽しさを感じることができる。
- ・友だちと話し合う活動の中で、友だちの考えを聞き、自分なりの考えを持ったり、伝えたりすることができる。
- ・次の目標に向かって話し合いをしたり、準備をしたりする活動を通して、みんなで創り上げていく楽しさを味わうことができる。

個学の畑で野菜を育てよう

- ・ジャガイモを育てたい
- ・カボチャを育てたい
- ・落花生を育てたい
- ・白菜を育てたい

収穫した野菜で何をしようかな

ジャガイモクッキングをしよう

ハロウィン・パンプキン・パーティーをしよう

- ・おいしかったな
- ・楽しかったな
- ・またみんなでクッキングをしたいな
- ・またみんなでパーティーをしたいな

落花生を育てよう①

- ・どうやって育てるのかな
- ・どんな種かな
- ・種まきはいつかな

落花生の種を観察しよう① 苗を植えよう①

- ・どこから芽が出るのかな
- ・花はさくかな
- ・実はどうやってできるのかな
- ・たくさん収穫したいな

落花生の生長の様子を観察しよう①

- ・葉が増えてきたよ
- ・花が咲いたよ
- ・土の中に線がのびているよ

- ・いつ収穫できるかな

落花生の収穫について調べよう（総合③）

- ・コスモスに行って、調べてみよう
- ・調べたことを教えてあげたいな
- ・調べたことをまとめよう
- ・収穫について伝える練習をしよう

落花生の収穫について伝えよう・教わろう①

- ・収穫できるか確認したいな
- ・収穫したいな
- ・収穫したらすぐに、茹で落花生にして食べてみたいな
- ・乾燥させなきゃいけないな

- ・調べたことを伝えよう

- ・そろそろ収穫ができそうだね

落花生を収穫しよう②

- ・たくさん収穫できたよ
- ・いい香りがするね
- ・新鮮な落花生を茹でて食べてみよう
- ・根を上にして干して乾燥させよう
- ・さやだけにして干そう

- ・収穫した落花生をどうしよう

収穫した落花生で何をしようかな②

料理して食べたい

- ・どんな料理があるかな
- ・食べたことがあるよ
- ・材料や作り方を調べよう
- ・バターピーナッツ・チョコナッツ
- ・クッキー・チョコバー

殻を使って作りたい・遊びたい

- ・色を塗ってみたいな
- ・人形が作れそうだな
- ・並べてみようかな
- ・飾りを作ってみよう

自分たちで育てた野菜に関心を持ち、それを利用した料理や遊び等を考えることができる。

子ども達から出てきた意見は、それぞれ受け止めるようにする。

- ・殻を使って何か作ったり遊んだりできそうだね

煎り落花生を作ろう②

- ・いい香りがするね
- ・落花生料理を作るのが楽しみ
- ・殻がたくさん出たよ
- ・殻を使って何かしたいな

- ・殻を使って何が
できるかな

落花生料理を作る準備をしよう③

- ・自分が作りたい料理を決めよう
- ・材料や作り方をまとめよう
- ・もちものを確認しよう

落花生料理を作ろう②

- ・作るのが楽しいね
- ・おいしいね

落花生の殻で作ろう・遊ぼう②

(本時 1/2)

- ・人形を作りたい
- ・飾りを作りたい
- ・並べて絵にしたい
- ・色を塗りたい
- ・材料を考えよう (2/2)

落花生の殻で作ろう②

- ・作るのが楽しいね
- ・みんなが作ったものもすてきだね

友だちと話し合う活動の中で、友だちの考えを聞き、自分なりの考えを持ったり、伝えたりすることができる。

グループ作業が必要な際は、メンバー構成や担当職員を考慮してグルーピングを行う。

- ・みんなで協力して、活動ができたね
- ・また、一緒にやりたいね
- ・個学の畑で、また野菜を育てたいな

6 本時について

- (1) 本時目標 友だちと話し合う活動の中で、友だちの考えを聞き、自分なりの考えを持ったり、伝えたりすることができる。
- (2) 本時展開

学習活動		主な支援・留意点【評価】								
らっかせいのからでつくろう・あそぼう										
○落花生の殻でできそうな遊びのアイデアを紹介する。										
<table><tr><th>人形</th><th>飾り</th><th>絵</th><th>ゲーム</th></tr><tr><td>・顔を描きたい。 ・組み合わせてロボットにしたい。 ・乗り物を作りたい。</td><td>・色を塗りたい。 ・紐をつけてオーナメントにしたい。 ・身につけたい。</td><td>・並べて貼りたい。 ・画用紙に貼って周りにも絵を描きたい。</td><td>・転がして遊びたい。 ・投げて遊びたい。</td></tr></table>	人形	飾り	絵	ゲーム	・顔を描きたい。 ・組み合わせてロボットにしたい。 ・乗り物を作りたい。	・色を塗りたい。 ・紐をつけてオーナメントにしたい。 ・身につけたい。	・並べて貼りたい。 ・画用紙に貼って周りにも絵を描きたい。	・転がして遊びたい。 ・投げて遊びたい。		
人形	飾り	絵	ゲーム							
・顔を描きたい。 ・組み合わせてロボットにしたい。 ・乗り物を作りたい。	・色を塗りたい。 ・紐をつけてオーナメントにしたい。 ・身につけたい。	・並べて貼りたい。 ・画用紙に貼って周りにも絵を描きたい。	・転がして遊びたい。 ・投げて遊びたい。							
○自分のしたい制作や遊びを発表する。										
・ロボットを作りたいです。作ったロボットで戦いごっこをしたいからです。										
・飾りを作りたいです。紐をつけてクリスマスツリーに飾りたいからです。										
・絵をかきたいです。きれいな絵を壁に飾りたいからです。										
・転がしゲームを作りたいです。みんなで遊んで楽しそうだからです。										
○次の時間にやることを確認する。										
・絵にかいてみよう ・材料を考えよう										
		○前時までの活動を、全体で確認していく。 ○本時のめあてを確認する。 ○遊びのイメージが視覚的に伝わるよう、落花生の殻の実物を用意し、説明に合わせて操作できるようにする。 ○子ども達から出てきた意見は、それぞれ受け止めるようにする。 ○考えをつぶやいている子どもに声かけをして、発言できるように促す。 ○話し合いの際には、個学の「話す・聞く」ルールをもとに行えるように教師・支援員が声かけをする。 ○自分の考えをみんなに伝えるときには、できるだけ作ってどうしたいのかも考えさせ、一緒に言えるようにする。 ○自分から発言できない子どもに声かけをし、安心して発言できるように促す。 ○子どもの聞き取りにくい言葉は、うまく補助して、みんなに伝わるようにする。 ○できるだけ全員の考えを聞き合えるようにする。 ◇友だちと話し合う活動の中で、友だちの考えを聞き、自分なりの考えを持ったり、伝えたりすることができる。 ○時間に余裕がある場合は、次時で予定している、イメージ図を描いたり材料を考えたりする活動を始める。 【評価】								

7 実践を終えて

(1) 単元全体を通して

「学級園をどう使うのか」というところから話し合ってきた。子どもたちは昨年度までの生活単元学習での経験を思い返し、「野菜を育てたい」という思いを持った。今年度から入級した5名も、掲示物を見たり、説明を聞いたりして、野菜を育ててどんなことができるかのイメージを持つことができた。

じゃがいもとかぼちゃ、そして落花生を育てることになり、そこから子どもたちと作り上げてきた生活単元学習が始まった。その時点で落花生＝ピーナッツということをはっきりイメージできていた子もいたが、実際に配られた種を見たことで理解できた子もいた。落花生の種を土に撒いたらどうなるのかと予想した時には芽が出ると答えた子は半数だった。どこに実がなるのかの予想はさまざまであったが、実際に畑で花が咲いている様子と花が落ちた後の様子を自分の目で確かめることができた。その不思議な実のなり方に驚き、予想していたこととの違いを確かめようとする姿がどの子にも見られた。

収穫の時期には、3年生以上が本で収穫の仕方や天日干しの方法を調べ、1・2年生に伝えた。収穫した落花生は、すぐにゆで落花生にして食べた。収穫した落花生で何をしようかと話し合ったところ、「料理して食べたい」という思いを持っていることが分かった。中には、「殻で遊びたい」「殻で作りたい」という思いを持っている子どももいた。一番の子どもたちの切実な思いは「お菓子を作ってみんなで食べたい」ということだったので、チョコバー・チョコナッツ・ピーナッツクッキー・バターピーナッツのグループに分かれて調理した。調理の楽しさはもちろん、自分たちで育てた落花生の味は格別で大満足の様子だった。

子どもたちの心は満たされ、落花生の殻を使って遊びたい・作りたいという方へと気持ちが向かっていった。発想豊かな子どもたちが沢山のアイディアを出して、その発言を聞いて遊びたい・作りたいという思いは持っていた。しかしどう作ったらいいのか、どんなものが出来上がるのかのイメージを持っていない子もいた。研究授業として設定していた当日は、「友だちと話し合う活動の中で、友だちの考えを聞き、自分なりの考えを持ったり、伝えたりすることができる」ことを目標にした。今までに出たアイディアの中で説明を詳しくしてもらうことで、より具体的にイメージができそうなものを教師側が選び、実際に落花生の殻を操作しながら説明してもらった。小さくて見えにくいものは紙に大きく書いたり、説明ではイメージしにくいものは実際に作って見せたりした。クリスマスが近いということもあり、ツリーを飾っておき、オーナメントを作りたいと発表した子のイメージをもとに、実際に作り、飾ってあげると子どもたちからは歓声があがった。そして自分が作りたいものは何か、それで何をしたいかを全員発表することができた。イメージがより具体的に持てたことでその後の製作もスムーズに、楽しく行うことができた。作ったものを発表したときの子どもたちは本当に嬉しそうで、自信に満ち溢れていた。

子どもたちの「落花生を育てたい」「食べたい」「遊びたい」「作りたい」という思いの実現に向けて、様々な問題をみんなで考え、意見を出し合い、話し合っていく中で、本単元は作られてきたのである。

(2) 切実な問題について

育てた落花生を食べることだけで終わらせるのではなく、食べられない殻にも注目させることで、子どもたち一人ひとりが「落花生の殻を使って楽しみたい。」という思いを持つことにつながった。その思いは、話し合いや活動を進めていく中で、友だちの思いを聞くだけではなく、具体物を見たり、絵に表したりして、イメージを広げたことで、一人ひとりのはっきりとした「切実な思い」となっていた。さらに、子どもたち一人ひとりが自分の作りたいものを考えたり、思いを伝えたり、制作したりする中で、自分の思いを実現できるという喜びを感じることもあった。

本時では、「聞く・話す」活動に集中させるため、実物の殻が手元のないまま活動する計画を立てたが、

作りたいもののイメージをより明確に持たせ、より作りたいという思いを持たせるためにも、実際に殻を手元で操作できる時間を確保する必要があったと思う。

（３）ひびき合いによる子どもの変容

生活単元学習では、みんなで話し合う活動が多く、それぞれの生活経験や知識を生かしながら進めてきた。生活経験に個人差はあるが、一つのことをみんなで話し合うことで、子ども達の切実な思いがぶれずに考えることができ、一生懸命に伝え合おうとする姿が見られた。また、日々の「聞く・話す」の指導を積み重ねることにより、子ども達同士が話し合いの内容に対して、うなずいたり、つぶやいたりするなど、感じ合えるようになってきた。

本時では、落花生の殻を使って何をしたいのか、友だちの考えを聞いたことにより、自分なりの考えを持ったり、伝えたりする姿が多く見られた。これも、一つのひびき合いの姿であったと考える。また、実物を用意したり、視覚的な支援をしたりすることで、話し合いの内容についてイメージを持ちやすくなりながら学習を進めるようにした。しかし、具体物を用いた活動をもっと多く取り入れることで、よりよいひびき合いの姿が見られたのではないかなと思う。自分の作りたいものを発表する時に教師が、「作ったもので、何をしたいの？」と切り返したことで、子ども達の思いがより明確なものとなった。

（４）成果と課題

子どもたちは話し合いの経験を重ね、「聞く力・話す力」を着実に身につけている。友だちの意見に反応したり、発表する子に体を向けて聞いたりすることができるようになってきていて、自分の考えを伝えるだけでなく、「〇〇さんと同じで」というような言い方ができる子どもも増えてきている。それは、相手の意見を理解し、聞いたことをもとに自分の考えを伝えようとしていることの表れである。互いに認め合い、ひびき合い、意見をつないでいこうとしている姿が見られるようになってきたことは、子ども達の大きな成長である。

また、活動の積み重ねが、子ども達の意欲的な活動の土台になっていると感じた。昨年度までの経験が、今年度にも生かされていて、さらに活動を広げることにつながっている。そして、その一つひとつの活動の達成感が次の活動への切実な思いへとつながっていつている。

今後の課題としては、一人ひとりが見通しを持ち、めあてを明確にして活動に取り組んでいくということである。児童の実態や生活経験の違いがあることを把握した上で、一人ひとりの支援の仕方や他教科と関連させた授業形態について、さらに工夫していきたい。話し合い活動では、話し合いに集中させるための手だてや、イメージを明確に持たせるための手だてについての工夫が必要である。また、16人という大人数なので、考えが広がるよさがあるという反面、待つ時間が長いということや、発言しにくくなってしまうという課題もある。これからも、個の特性や異学年と一緒に学習するよさを生かしながら、互いのよさを認め合える子どもに成長していけるよう、支援していきたい。

子ども達が作った落花生の作品



ロボット



あやつり人形



オーナメント



ひよこファーム



木琴